

## 鳥羽にある天皇陵をめぐる

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

院政の舞台となった鳥羽離宮は、名神高速道路の京都南インターの南から東に広がる、京都市伏見区竹田・中島付近に造営されました。当地の南では鴨川と桂川が合流し、湿地帯が広がっていましたが、平安京の朱雀大路から南に延びる「鳥羽の作道」があり、山陽道、瀬戸内海につながる水陸交通の要所にもなっていました。

応徳三年(1086)白河天皇は藤原季綱から領地の献上を受け、讓位後の御所とするため、鳥羽離宮の造営が始められました。百余町の広さを持つ一帯に、地の利をいかして広大な池が南側に造られました。その池の西側から北側にかけて、南殿・北殿・馬場殿・泉殿・東殿・田中殿の順に御所や御堂が次々と造営されました。

現在その姿を彷彿とさせる建物は何も残っていませんが、昭和35

年から継続し、現在すでに140次にわたる発掘調査によって、建物や庭園遺構が多数発見され、文献史料とあわせて当時の姿を知ることができるようになりました。

離宮の造営にあたっては、当時流行していた浄土信仰の影響が色濃く反映し、九体阿弥陀堂などの御堂が多く建立されました。地上に極楽浄土を表現しようとしたのでしょう。白河・鳥羽天皇は讓位して上皇となった後、出家しています。離宮は政治と宗教の場でもあったのです。その中で東殿には両天皇により後に御陵となる塔がそれぞれ建立され、離宮内では墓所的な意味あいの強い地域となりました。

## 白河天皇陵—成菩提院陵

白河天皇は堀河天皇に讓位した後も院政を行ない、あわせて57年間も実権を握り続けました。早く

から死後眠りに就く場所を東殿の地に選び、三重塔や多宝塔などを建立しました。天治四年(1129)7月7日に77歳で崩御、火葬の後に遺骨はいったん洛北香隆寺に安置されていたが、遺言により塔の一つである三重塔内に改葬されました。

創建当時の御陵の様子を知る手掛かりとなったのが、周辺で数次にわたって行なわれた発掘調査でした。その成果によると、御陵を囲むように幅約8mの方形の堀が巡っていました。この堀は外側が素掘り、内側が石垣で護岸され、南北・東西とも55m前後の規模であることがわかりました。石垣は長辺約1mの自然石を用いて、階段状に数段積まれていました(写真1)。堀からの出土物には、和琴や天蓋に使われた埴塔などの節金具があります。



写真1 白河天皇陵の堀 南辺の護岸 (南から)



写真2 近衛天皇陵の西辺の堀 (南から)

### 鳥羽天皇陵—安楽寿院陵

鳥羽天皇は白河天皇の孫にあたり、引き続いて院政を行ない東殿・田中殿を造営しました。白河天皇がすでに御所としての機能を持つ南殿や北殿を整えていたためか、鳥羽天皇は主に御堂の造営に力を注いだようです。東殿には安楽寿院を造り、白河天皇にならい三重塔（本御塔）を建立して、みづからの墓所としました。保元元年（1156）7月2日に64歳で安楽寿院に崩御しました。遺言により火葬には付されず、その日の夜に三重塔内に葬られました。現在の建物は江戸時代末に建てられた法華堂です。

### 近衛天皇陵—安楽寿院南陵

鳥羽天皇が建立した塔には、新御塔と称されたものがありました。この塔は中宮であった美福門院得子の墓所となるはずでした。

ところが永暦元年（1160）11月に崩御した得子は、高野山に葬られることを望んだため、この新御塔には久寿二年（1155）7月23日に17歳で先に崩御した、実子である近衛天皇の遺骨が、洛北知足院より改葬されました。現在の多宝塔は桃山時代に豊臣秀頼によって再建されたものです。

鳥羽・近衛天皇陵の周辺で行なわれた調査では、東殿に苑池が造られていたことがわかりました。この池は東殿だけで完結しており、田中殿などの南部で発見した広大な池にはつながっていません。

各天皇陵と苑池の関係は、鳥羽天皇陵の南側では、広場と池の北辺の汀が、一方、近衛天皇陵の南西では、南北と東西方向の堤状遺構が見つかりました。堤状遺構は先にあった苑池の一角を埋めて造られたもので、後に御陵とする目

的のため、堤状遺構を築いて苑池との区画が行なわれたものと考えられます。本来なら得子の墓所です。わざわざ苑池を埋めて近くに塔を建立したことは、得子に対する鳥羽天皇の想いの現れだったのでしょうか。池の中からは木製の小型五輪塔や法華経の一部を書いた経石などが出土しました。

現在の天皇陵 白河・鳥羽天皇は、望みどおり自身が建立した三重塔で眠りにつきました。近衛天皇の死と共に、離宮も次第に衰退していき、天皇陵も荒廃しました。しかし、その場所は長く伝承され、近世初期には整備されました。今は、鳥羽離宮の名残を惜しむかのように、ひっそりと佇んでいます。現在も各天皇の命日には、法灯を守り続けてきた安楽寿院と宮内庁によって年忌がとり行なわれています。（清藤 玲子）



写真3 1977年当時の白河・鳥羽・近衛天皇陵（南西から）